今年度で46回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今回も優秀な作品が数多く寄せられ、26点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童・生徒の皆さんを紹介します。

また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。

※コンクールの審査対象は小学校３年生以上。

第46回 児童生徒 読書感想文 コンクール

小学校の部 3年生

参加数　37点

▶最優秀賞／山本　結愛 さん（川湯小）

選んだ本　ごんぎつね

▶優秀賞
佐々木 奏太郎さん（弟子屈小）
関川　結衣さん（川湯小）

小学校の部 4年生

参加数　16点

▶最優秀賞／石井　綾 さん（和琴小）

選んだ本　てぶくろを買いに

▶優秀賞
中村　魁李さん（弟子屈小）
飯島 政二朗さん（弟子屈小）
榎本　蒼太さん（川湯小）

小学校の部 5年生

参加数　44点

▶最優秀賞／宮﨑　翔大 さん（川湯小）

選んだ本　『人はクマと友だちになれるのか』『しれとこのきょうだいヒグマヌプとカナのおはなし』

▶優秀賞
今川　航太さん（川湯小）
藤原 悠太郎さん（川湯小）
萩原　希さん（美留和小）

小学校の部 6年生

参加数　33点

▶最優秀賞／鈴木　哲平 さん（弟子屈小）

選んだ本　修造流・逆転の発想法

▶優秀賞
横山　結那さん（弟子屈小）
関川　瑛太さん（川湯小）
在津　咲幸さん（和琴小）

中学校の部 1年生

参加数　48点

▶最優秀賞／大嶋　景奈 さん（弟子屈中）

選んだ本　伊達政宗 独眼竜の挑戦

▶優秀賞
小野　萌笑さん（弟子屈中）
金子　紗幸さん（川湯中）

中学校の部 2年生

参加数　48点

▶最優秀賞／樋川　万稀 さん（弟子屈中）

選んだ本　羅生門・鼻・芋粥

▶優秀賞
三上　葉月さん（弟子屈中）
鈴木 龍之介さん（川湯中）

中学校の部 3年生

参加数　47点

▶最優秀賞／大村　紫苑 さん（川湯中）

選んだ本　少年と犬

▶優秀賞
永谷 埜々花さん（弟子屈中）
相澤　乃衣さん（弟子屈中）

高等学校の部

参加数　49点

▶最優秀賞／羽田 安梨沙 さん（弟子屈高２年）

選んだ本　星の王子さま

▶優秀賞
澤頭　優彩さん（弟子屈高１年）

小学校3年生の部　最優秀賞

ありがとうとごめんなさい

川湯小学校　山本　結愛 さん

わたしが読んだ本は「ごんぎつね」です。

なぜこの本をえらんだかというと四年生が授業で読んでいて、おもしろそうだと思ったからです。

このお話は、一人ぼっちのこぎつねのごんが、兵十にいたずらをしたことで、兵十のお母さんにうなぎを食べさせてあげられず、お母さんは死んでしまいます。そのことを知ったごんは「あんないたずらをしなきゃよかった」とこうかいして、自分のやったことのつぐないをするお話です。

わたしが感動した場面は、ごんが「あんないたずらをしなきゃよかった」と考えている場面です。なぜなら、ごんはいたずらはもうやめようと思っていたからです。いたずらをするとこらしめられてしまうので、いたずらはしない方がいいと思いました。ごんがはんせいしていたので感動しました。わたしもごんにいたずらをしてほしくないので、はんせいしてよかったと思います。

わたしが心に残った場面は、ごんが火縄じゅうでうたれた場面です。わたしはごんがうたれてかわいそうだと思いました。ごんが兵十にいたずらをしてしまったから、悪いことをしたと思ってくりを持ってきているのに、またいたずらをしにきたと思われて、かわいそうだと思いました。それでも、ごんが兵十に毎日くりやまつたけを持っていくのは兵十となかよくしたいからだと思いました。なので、わたしはごんと兵十がなかよくできる方法を考えました。まず、一つ目は、もういたずらをしないことです。二つ目は、兵十の好きな食べ物を持っていってよろこばせてあげることです。兵十に悪いきつねだと思われたままにならないように、兵十の好きなプレゼントをわたしながら、もういたずらはしないとすなおに話したらよいと思いました。そしたら、なかよくなれると思います。

この本を読んで、わたしが大事だと思ったことは、相手がいやがることではなく、よろこぶことをすることと、かなしんでいる人を元気づけることです。そして、ごんのように自分のやってしまったことにごめんねという気持ちをもつこと、ごかいされたままにならないように正直に話すことが大事だと思いました。わたしも、ありがとうとごめんなさいをはずかしがらずに言えるようになりたいです。

（書名）「ごんぎつね」
新美　南吉／作

（寸評）中心人物である「ごん」の気持ちに寄り添いながら読み取った結愛さんの感動がとてもよく伝わります。「ごん」と「兵十」の悲劇を起こさず、仲良くできる方法を考えたことがたいへん素晴らしいですし、それは、結愛さんが「ごん」に切実に心を寄せていたからこその思いですね。「ごん」を撃ってしまった「兵十」を悪者にするのではなく、相手を思いやることこそ大切だと感じる結愛さんの優しさも感じ取れる、素敵な感想文です。

小学校4年生の部　最優秀賞

一回で決めつけない

和琴小学校　石井　綾 さん

国語の時間に「きつねの物語」読書会をしました。私は「手ぶくろを買いに」を選びました。この本を選んだ理由は、子ぎつねのしていることがとてもおもしろかったし、とてもきれいな情景びょう写がいっぱいあって、いいお話だと思ったからです。

この物語は、雪で手が冷たくなった子ぎつねのために、母さんぎつねが手ぶくろを買ってあげたというお話です。だけど、人間をあぶないと思っている母さんぎつねは、子ぎつねのかた手を人間の手に変えて、子ぎつねだけで町に行かせました。

このお話で心に残った場面は、手ぶくろを買う時に、まちがえて人間の手じゃなくてきつねの手を出してしまったところです。母さんぎつねに人間の手に変えてもらったのに、まちがえてきつねの手を出してしまったので、どうなるのだろうとドキドキしました。

でも、ぼうし屋さんは、最初は子ぎつねのことをうたがっていたけど、手ぶくろを子ぎつねに売ってあげたので、やさしい人物だと思いました。

母さんぎつねは、てぶくろを買ってきた子ぎつねを見て、「本当に人間はいいものかしら。」と考えていたから、人間はいいものだと思ってくれそうなので、よかったと思いました。

母さんぎつねは、家鴨をぬすもうとして人間に追い回されたことがあるので、にんげんがあぶないものだと考えていました。人間は家鴨をぬすまれるとこまるので、ぬすんだきつねを追い回します。母さんぎつねはそれを知らないから、人間をあぶないものだと思ってしまったのだと思います。

でも、子ぎつねは、人間にやさしくしてもらって、手ぶくろを売ってもらうことができました。だから、母さんぎつねは、一回人間に追い回されただけで、人間があぶないものだと決めつけてしまうのはダメだと思いました。母さんぎつねは、家鴨をぬすまないで、人間のことをもうちょっとよく見ればよかったと思いました。

私も、母さんぎつねと同じように一回だけで決めつけてしまったことがありました。逆上がりを初めてやった時に、うまくできなくて、ぜったいにできないと決めつけてしまいました。でも、出来るポイントに気をつけながら練習したら出来るようになりました。

だから、一回で決めつけるのではなくて、いろんなことをよく見てちょうせんしてみることが大事なのだと、この物語を読んで考えました。

（書名）「手ぶくろを買いに」
新美　南吉／作

（寸評）動物にとって、人間はあぶないものだというのは、当たり前のことかもしれません。でも場合によってはそうではないかもしれないですよね。

子ぎつねが人間にやさしくしてもらって、「人間はあぶない」と決めつけていたお母さんぎつねの考えが、少しずつ変わっていく様子をよく読み取っていますね。自分にも同じ考えはなかったかをふりかえることができたのもよかったです。

※そのほかの最優秀作品については、来月以降順次紹介していきます。